

「柏崎の橋」

9 森近橋

古来鯖石川には、渡し場が5つあった。下流から悪田、中田、安田、南条、森近の渡しである。今回は森近橋と、森近橋架橋以前にあった森近の渡しを取り上げる。(南条の渡しは、ソフィアだより185号に掲載済みである。)

以下は南鯖石郷土誌、森近郷土誌の記述に沿って、森近橋、森近の渡しに関する記述をまとめたものである。

正徳元年(1711)年8月苅羽郡鯖石庄九之木江森近村差出帳に、「鯖石川渡し 船1艘 但し長さ4間4尺5寸(8.6m) 幅5尺5寸(1.7m) 高さ1尺5寸(45cm)」とあり、他に渡し賃が書かれている。渡し守には他に家(3畝歩、298㎡)と田(5畝歩、496㎡)が支給されていた。

明治12年の森近村史には、「渡しー三國通り(三國街道のこと)に属す。本村より西の方2町(200m)余、鯖石川の流にあり、深さ4尺(1.2m)、幅20間(36m)、渡船1艘 私渡り賃銭1人金3厘、人馬金5厘、駕籠1挺人夫共金7厘」とある。(柏崎文庫の南鯖石村・森近区にも、「鯖石川 森近渡し 船1艘 賃銭1人3厘馬駕5厘」とある。)

その後交通量が増え、多様な物を運ぶようになって、渡し人夫とのトラブルが出るようになったので、渡し賃金の改定を明治16年に新潟県に申請し、渡し賃を8区分して、明治18年に許可された。その際、掲示の雛型が新潟県庁から示されている。

明治30年の鯖石川大洪水の後に、鯖石川改修工事が行われ、新たに森近橋(幅12間の木橋)が掛けられ、森近の渡しは使命を終えた。

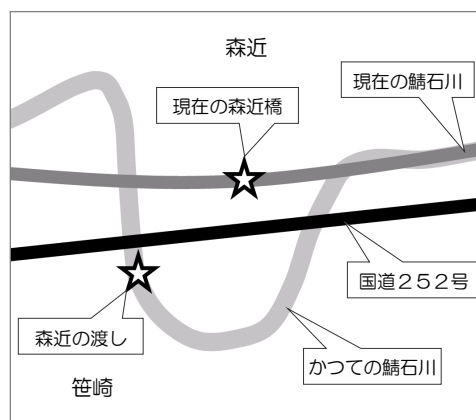
明治40年頃から、新潟県では森近地内へのコンクリート堰設置を伴う鯖石川改修工事を計画した。南鯖石村では森近橋の県費での架替えを含む交渉を行ったが、工事費1万円のうち県の交付金は7千円で、架橋費は県の交付がなかったため、この計画は実現しなかった。



(写真) 現在の森近橋

旧橋は平成17年6月の豪雨の際、激しい水の流のため橋脚が損傷し通行できなくなった。平成19年に架け替えが行われ、車のすれ違いが可能なように幅が拡大された。

現在の森近橋は、その後の鯖石川改修工事、国道252線の整備に伴い、森近の渡しから南東、森近集落寄りに位置している。



鯖石川の流れと森近の渡し・森近橋の位置
※明治8年12月作成森近村耕地絵図面
(「森近郷土誌」所収)を複写

●参考にした本

- ・柏崎文庫 第19巻(080 セキ 19-1)468ページ
- ・南鯖石郷土誌(224 ミナ)〈南鯖石尋常高等小学校編、南鯖石小学校復刻〉10, 11ページ
- ・森近郷土史(224 モリ)森近町内会編集 20~25、71ページ
- ・江戸時代南鯖石百姓衆の生活 桑山省吾著(224 クワ)334、335ページ